

生涯学習情報紙

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第369号

9月
September

2024



これまでの功績に感謝！



この度、名音在住の勝 健一郎さんが、社会教育有功者として文部科学大臣から表彰を受けました。これは、地域における社会教育活動の推進のために、多年にわたり社会教育の振興に功労のあった方を表彰するものです。



勝さんは、現在も名音子ども会育成会長や大和村子ども会育成連絡協議会会長や大和村青少年育成村民会議委員を務め、大和村の青少年の健全育成のために尽力されています。また、大和村でなく、大島地区子供会育成連絡協議会や鹿児島県子ども会育成連絡協議会で活躍された功績が認められ今回の受賞となりました。

これまで多くのイベント等の企画・運営を通じて、社会教育活動を推進してこられました。

今回の受賞、誠にありがとうございます。今後も、勝さんのお力を借りながら、社会教育の充実に努めていきます。



自然体験活動

学芸員の 大和村あまくま訪ね歩き



＝四万十帯と大和村＝

先月8月8日に宮崎県を中心に大地震が発生して、南海トラフ地震を警戒する動きがあり、心配された方も多いと思います。

その南海トラフに沿って、日本列島の最も東側に位置している地質構造区が「四万十帯」と呼ばれる地層群です。その北側は仏像構造線と呼ばれる大断層が境界となっていて、関東地方から中部地方、紀伊半島、四国、九州を横断し、熊本県の天草諸島の下側から南下して、奄美大島の西南側を突き抜け、沖縄島まで延びています(図1)。

仏像構造線が奄美大島を突き抜けている場所は大和村から瀬戸内町が中心で(図2)、福元地域の一帯には砂岩が優勢となる地層が分布しています。水はけがよく果樹栽培に適している福元地域の土壌は、この仏像構造線によりもたらされた恵みであり、特別な土地条件なのです。

(参考文献) 竹内誠、1993、地域地質研究報告『5万分の1地質図幅：湯湾地域の地質』、地質調査所

奄美群島タンカン品評会金賞農家の方が「福元はミチャじゃなくて、砂質の土壌だからいいんだ。」と話されていたのを聞いて、四万十帯のことを思い出しました。

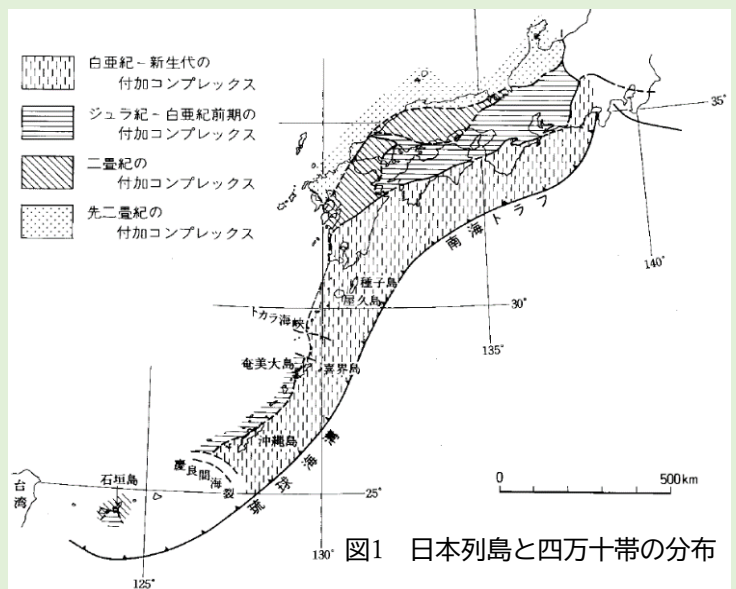


図1 日本列島と四万十帯の分布

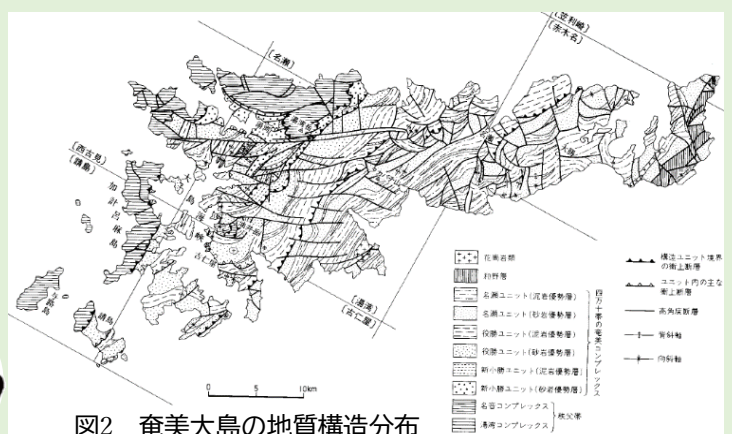


図2 奄美大島の地質構造分布